

記憶に残る風景をより美しく

福岡市のアイランドシティは、現在工事が進行中ですが、近年先がけて供用された、箱崎埠頭から雁の巣へ抜ける道路は、途中に3つの大橋があり、博多湾を広く見渡すことができ快適な景観になっています。また、この道路のおかげで都心部から海の中道海浜公園、マリンワールド、志賀の島方面へのアクセスは非常に向上しています。そこで工事中のアイランドシティから先の志賀島までドライブしました。ここでは、金印公園から見た博多湾の風景がすばらしかったこと、しかし目の前にある電柱と電線が風景のパノラマを阻害していたこと、旅行者が記念写真を撮る場所を探すのに苦労していたことなどから、美しいまちづくりのひとつとして、美しいスポット、より美しくしたいスポットに的を絞った景観の向上について提案したいと思います。

アイランドシティから志賀島までドライブすると、海の中道海浜公園の先まではきれいに整備されており、空が広くて両側に松林と白い砂を見ながらの快適なコースになっています。志賀島まで来ると両側に広い海が広がり、最高にいい気分になります。志賀島では金印公園に立ち寄りました。金印公園には数台の車が立ち寄っており、タクシーで来ている人もいます。遠方からの旅行者でしょう。公園は山側の斜面を散策するようになっており、ここからは正面に博多湾に浮かぶ能古島、右側に糸島半島、左側には遠く百道浜の福岡タワー、ドームも見えます。この公園では、静かで落ち着いたある海の風景、島や半島のシルエット、静かに行き交う貨物船などを見ながら、アジアとの交流など歴史のロマンに想いを巡らせるのが楽しむポイントです。

階段を上ったところに「漢委奴国王」のレリーフと説明のサインが設置されており、ここでほとんどの観光客は記念写真を撮っています。

▼金印「漢委奴国王」のサインと能古島



▼タクシーの運転手さんが記念写真のサービス



しかし、上の写真のように、せっかくの静かな自然風景の中に、空の部分と海の部分に電線が大きく横切っています。

さらに園内の散策路を歩いてみると、どこから海を見ても電柱、電線が視野に入ります。風景の写真を撮りたいと、構図やアングルを気にしはじめるとますます目障りになってきて、全国各地からはるばる訪ねてきた旅行者、観光客も同じように感じているだろうと思うと、地元の人間として、申し訳ない、恥ずかしいような、情けない気分になってしまいました。

▼公園内のどこから見ても電柱、電線が邪魔をしています。



▼電柱が邪魔なため、とうとう最後には道路に出て写真を撮っています。



▼改めて見ると、金印公園前の道路には約10本の電柱が海側に並んでいます。



そこで、志賀島を一周して電柱の数を数えてみたところ、下図のとおりです。

志賀島の入口に当たる（主）志賀島和白線の両側に海が見える区間で約50本、志賀島を一周する県道志賀島循環線の沿道に立ち並ぶ電柱は、約220本ありました。これらの電線をすべて地中化してしまうことは公共事業予算縮減の折とても不可能なことです。金印公園前の10本だけを地中化すると考えれば、単純計算で27分の1の費用で済むということになり、それが実現すれば、全国から訪れる観光客への印象が向上するだけでなく旅の思い出の美しい記念写真の1枚が、永く記憶に残る事でしょう。また、地元の人々にとっても、金印公園が歴史的に貴重な価値があるだけでなく、郷土の美しい風景スポットのひとつとして、さらに誇りに思える場所になることでしょう。

▼志賀島の入り口から、電柱が立ち並ぶのが目立つ



▼金印公園の前の10本だけでも地中化できれば、美しい印象がさらに向上する。

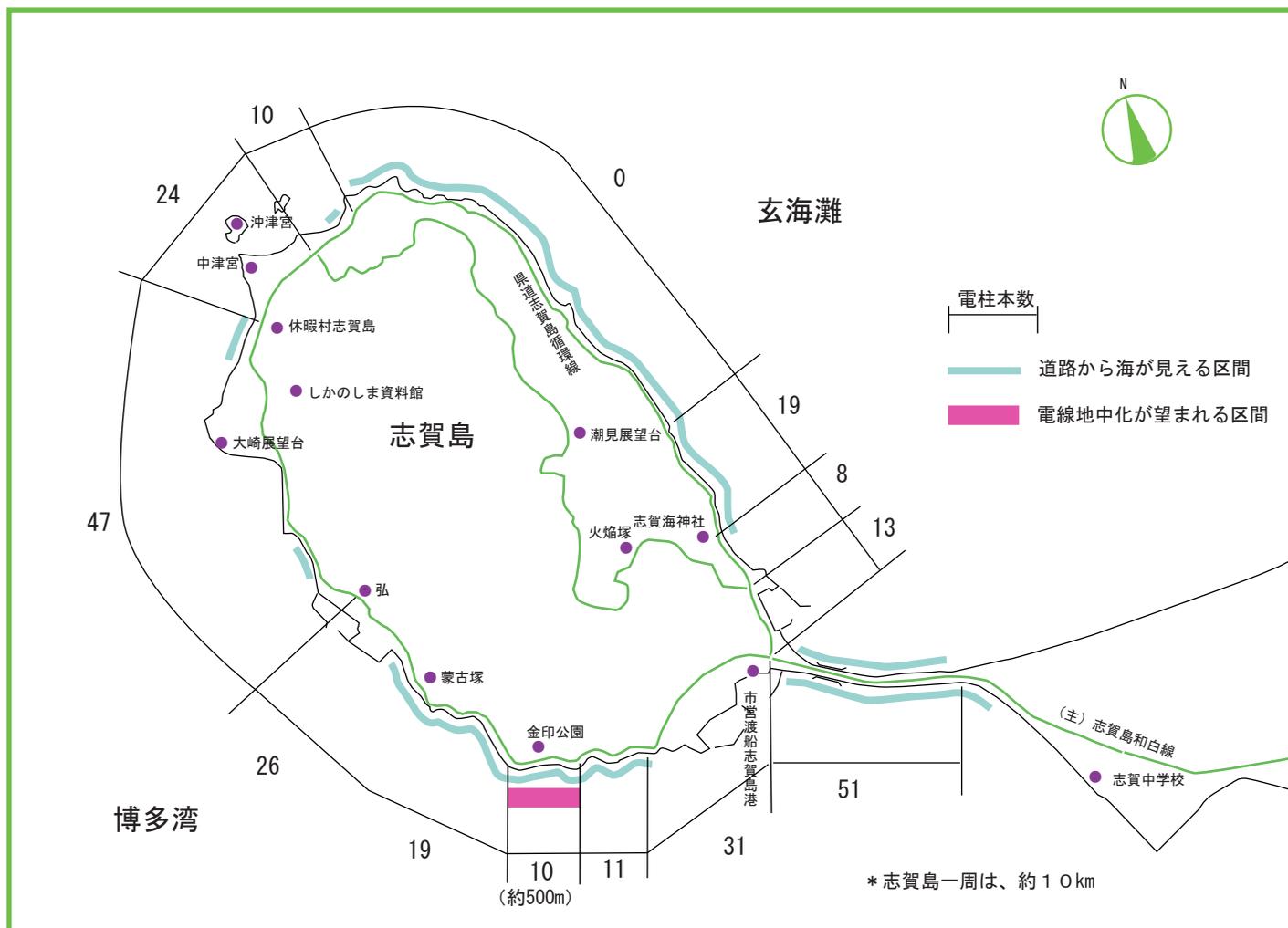
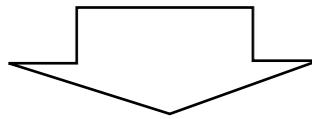


図 志賀島の道路沿いに立ち並ぶ電柱本数

▼金印公園前の風景

●海側に電柱が立ち並ぶ。



▼記憶に残る風景

●空と海と糸島半島がっそう広く美しく見える。

